

作成日 平成 24 年 2 月 2日

市立三次中央病院 第5回 CS 向上推進活動

サークル活動完了報告書

サークル名	生き生き生活応援隊	発表者	阿川 純子
		リーダー	阿川 純子
部署	5階西病棟	サブリーダー	
活動期間	開始:平成 23 年 5 月 1日	メンバー	大胡 美沙
	終了:平成 23年12 月 28 日		
会合状況	会合回数 _____ 回		
	1回あたりの会合時間 _____ 分		
所属長/推進メンバー		所見欄	
レビュー担当者			

テーマ

二交代制勤務導入に向けた取り組み

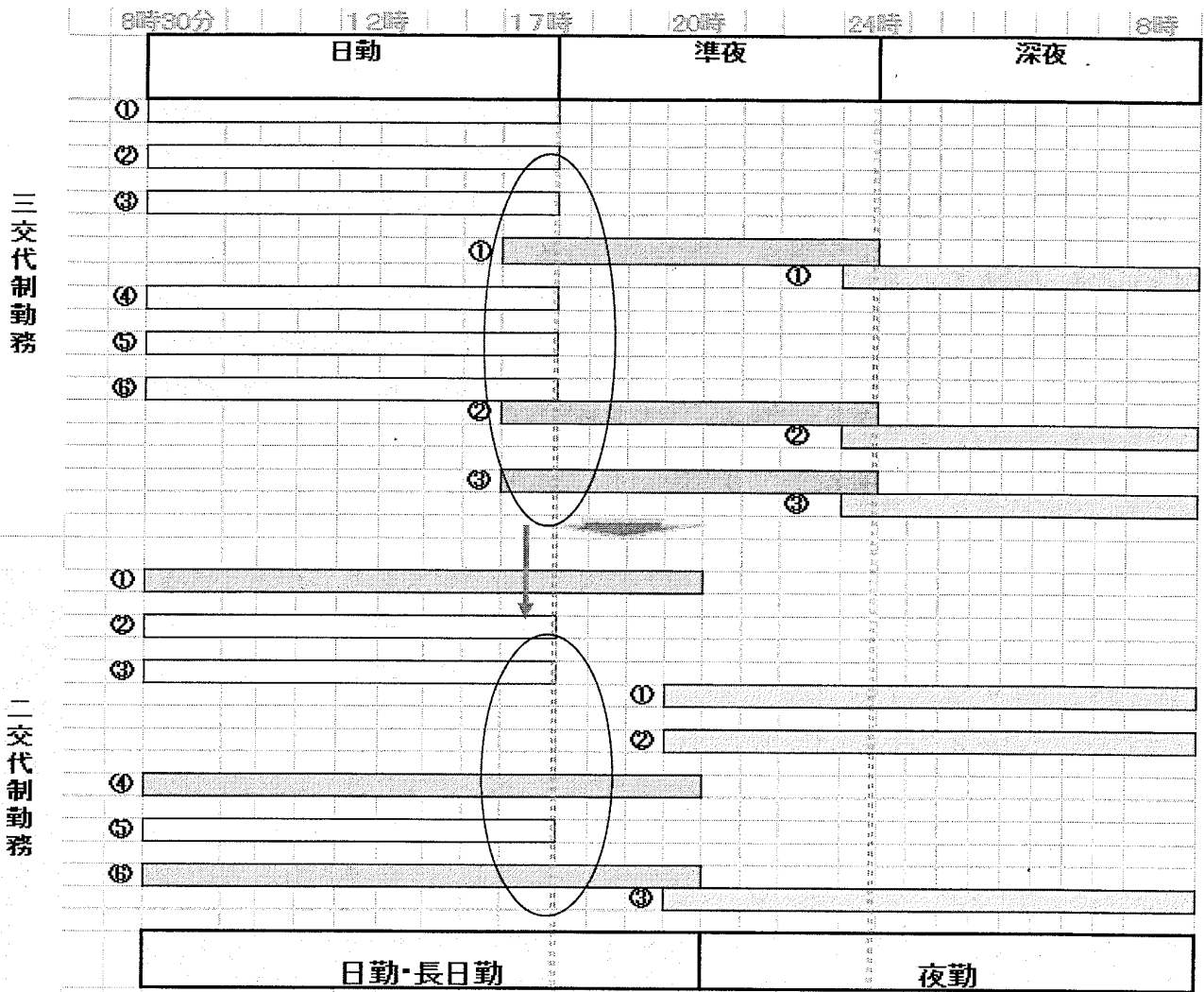
テーマ選定理由

3階西病棟ですでに導入されていた二交代制勤務について、内科病棟である当5階西病棟でも取り組むことにした。三交代制勤務での夜間の申し送り時間の重複の軽減、夜勤看護師の休憩休息時間の確保、さらに患者の入眠から覚醒までの継続した看護介入による患者の状態把握をめざした。二交代勤務制の導入後の3階西病棟スタッフからも好評だったこともあり、患者を支える看護師スタッフが生き生きと働くことで患者の満足度も上がることにつながると考えて二交代制勤務導入を目指した。

現状把握

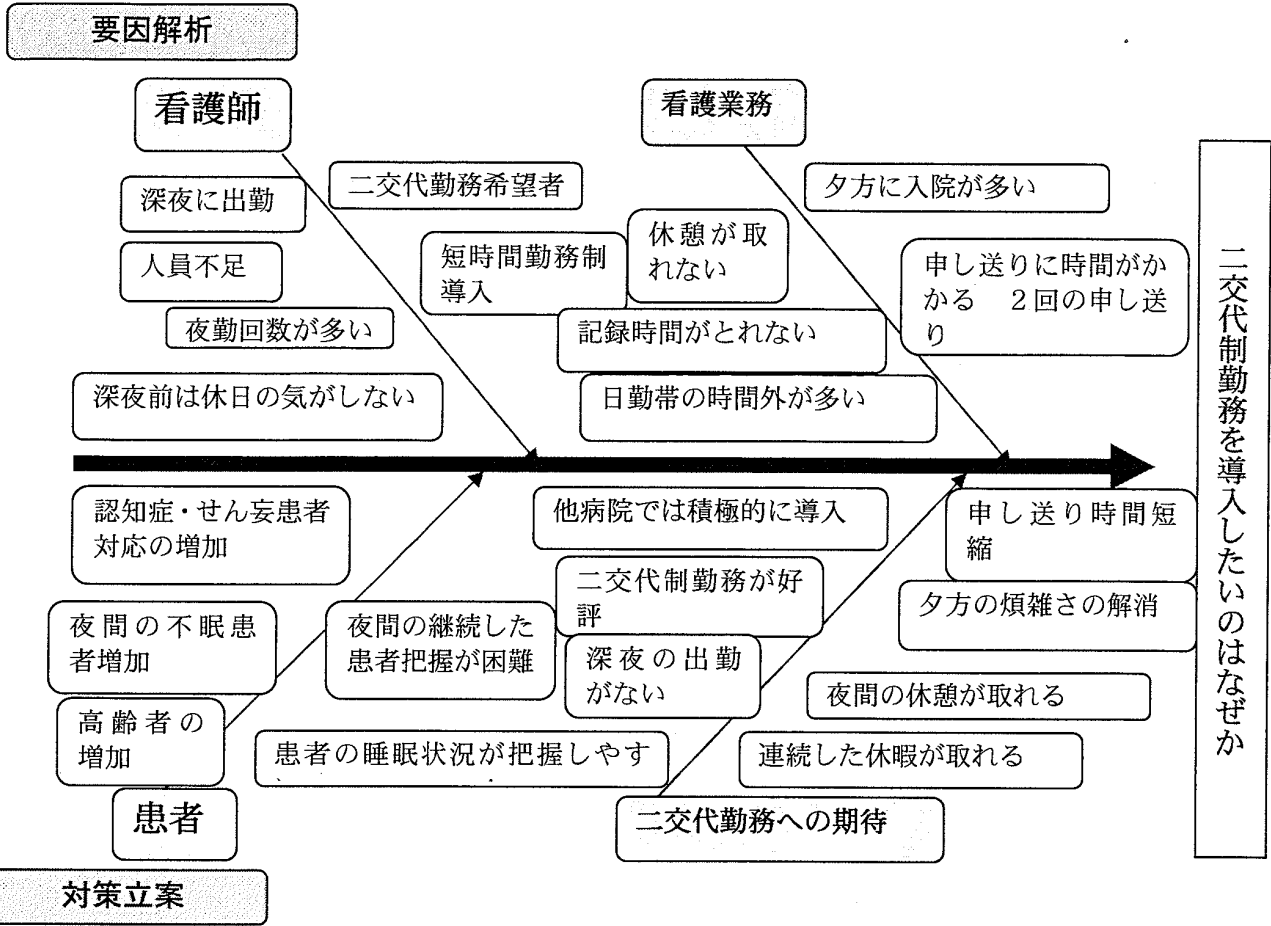
内科病棟の業務改善について検討した。三交代勤務の現状を見たとき、

- ・ 日勤帯の時間外が多い。特に夕方になってからの即日入院が毎日のようにあり。16時から18時の時間帯は特に看護師詰め所内が煩雑になっていた。その理由として、日勤から準夜勤務者への申し送りに時間を要していることと、日勤者の看護記録・医師の指示受けなどが重なっていることがその理由として考えられた。
- ・ 日勤から準夜、準夜から深夜への2回の申し送りが行われていた。
- ・ 三交代の休憩・休息時間の確保があまりできていなかった。特に、夜勤帯の休憩・休息はほとんど確保できない状況だった。
- ・ 三交代勤務の場合、夜勤前後の休日では日中もあまり活動的なことはせず、休養を重視する状況だった。休日とはいっても常に勤務のことが頭にある状況。遠出を企画して連続した休日を希望しても、夜勤前後での休日の確保が現状だった。



目標設定

- 二交代制勤務の導入により夜間の休憩・休息の確保と、有意義な休日確保で看護師の満足度が高まる。
- 業務改善による時間外勤務時間が減少する。
- 入眠から覚醒までの継続した夜間の患者支援により患者の安心感につながる。

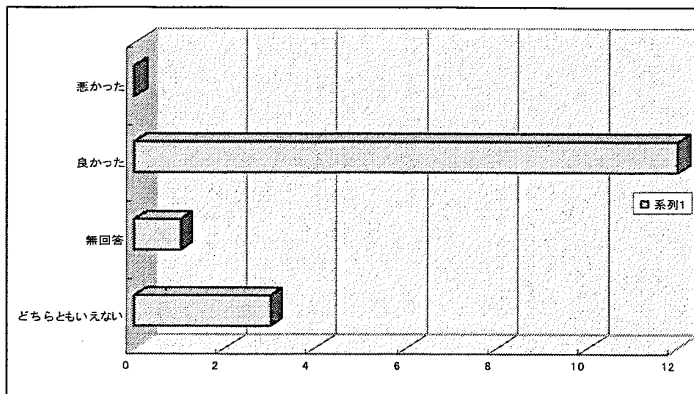


2011年5月～6月 二交代制勤務 試行開始前の意見交換を実施
 7月1日 試行開始
 9月下旬 開始3ヶ月後評価

対策実施

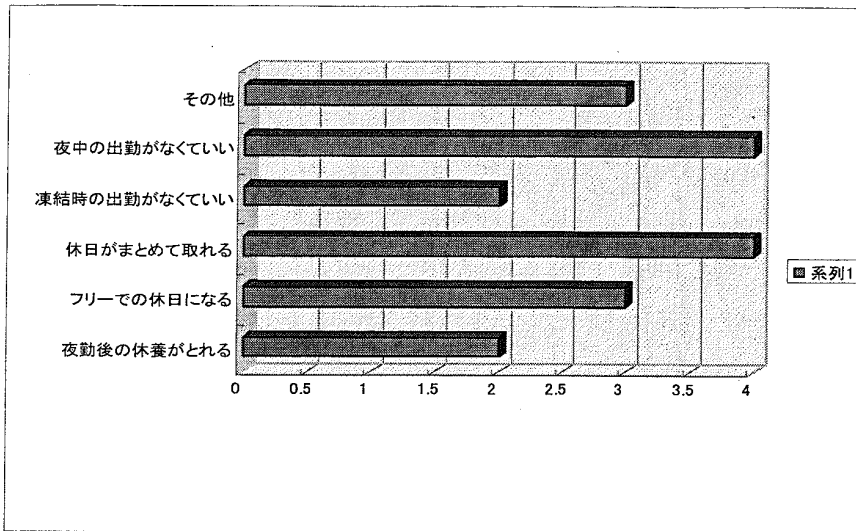
- 二交代制勤務試行開始後の業務調整
 導入後、ノートによる細かな気づきの記載と、その気づきに対する週1回の定期カンファレンスによる業務改善での定着化。
- 看護師アンケートによる評価
 対象：5階西病棟 看護師スタッフ 23名 (夜勤要員20名、日勤のみ 3名)
 回収率：70% (16/23名)
 実施期間：2011年9月29日～10月1日

効果確認



1. 二交代勤務試行について

試行して良かった 12名
 悪かった 0名
 どちらともいえない 3名
 無回答 1名



結果：

良かった理由：

- ・夜勤をした翌日が休日になるので回復できて、体調が整いやすい。(2名)
- ・休日がまとめてとれるので休暇が有意義(4名)
- ・夜中に出たり入ったりがない(4名)
- ・凍結時に出勤しなくていい(2名)
- ・休みが夜勤前後などではなくフリーで休めるため嬉しい(3名)
- ・その他

自宅が遠方のため通勤が楽になった。

子供の世話をしてくられる

どちらともいえない理由：

- ・年齢的に疲れやすくなった？
- ・短時間勤務で二交代を経験していないため判断が難しい。

2. 二交代制勤務の評価

日勤について：

- ・入院は日勤者が対応。そのため入院が多いと時間外勤務になるため、負担が大きい。
- ・入院患者(長期・退院調整患者)への受け持ち看護師としての介入が弱くなった。

長日勤について：

- ・夜勤前に長日勤だと患者の状態が把握しやすい。
- ・勤務時間が長いため疲労感は強い。17時から時間が長い。
- ・休憩がとれないと疲労感も強い。一番しんどい。

夜勤について：

- ・三交代時より子供と関わることができる
- ・家にいる時間が長くなったような気がする。
- ・深夜入りの三交代時より身体的に楽であり、翌日が休みのため疲れが残らない。
- ・思っていたより苦ではなかった。
- ・12時間は厳しいが決められた休憩がとることができるし次の日が休めるため三交代よりよい。
- ・21時～明朝9時までの患者の睡眠状況や状態を通して看ることができるので良い。

生活リズムについて：

- ・夜勤の出勤回数が三交代時より少ないため、自分の時間がとれる。
- ・夜勤後の休日で疲れが残らない。

- ・フリーでの休みが増えたため、旅行に行けるし自分の時間が増えた。
- ・仕事と休みのメリハリがつく。

標準化

- ・二交代制勤務の試行から導入に変更

まとめと今後の課題

2011年7月1日～9月30日に二交代制勤務を試行し、アンケート調査を行った結果、良かったという反応が多く、全員が二交代制勤務の継続を希望した。夜中の出入りがないことや、夜勤前後の休日はなくなり、また夜勤後に必ず休日になるため体調も整いやすいとの反応だった。連続での休日が確保でき、遠方への研修参加を兼ねた旅行も計画したり、また、子育て中の看護師スタッフからは、子供の世話をする時間や家庭にいる時間が長くなったように感じられており、休日が有意義に過ごせるようになったことが明らかになった。スタッフの満足感につながり、目標達成ができた。

さらに、夜勤3名体制により、当病棟は内科系統の高齢患者や重症患者を引き受ける病棟ではあるが、重症度は高くても休暇を有意義に活用できることで患者に向き合える気持ちの余裕も生まれるようにも感じられる。認知症患者への対応も、否定ではなく患者のニーズを同じ内容であっても、繰り返し繰り返し聞きながら関わることで、最初は興奮状態だった患者も日を追うごとに徐々に落ち着きを取り戻すようになっている。二交代制導入後の患者の生の声からはねぎらいの声はあっても、体制に対する明確なものはない。しかし、看護師側からは夜間の患者の睡眠状況を把握しながら看護できることが良かったという結果だった。

しかし、課題としては二交代制勤務開始により、昼間に対応する退院調整などの、受け持ち患者への継続した介入時間が減少傾向にある。人員不足の中、在院日数も減少傾向にあり、受け持ち看護師の役割についても今後は再度検討していきたい。

さらに、長日勤がもっとも疲労感を感じる勤務との反応だった。休息時間をとれるように配慮しながら、長日勤の業務内容を見直し、夜勤業務で対応可能な内容は業務調整し、今後も現場スタッフ間の意見交換を重ねながら見直していきたい。